

# WiRES-II を使った 交信と中継局の開設

## 第 7 章

JS1CYI 吉澤 浩史

WiRES はパーテックススタンダードが提唱・管理・運営するインターネットを使ってアマチュア無線バンドの電波を国内外に中継する一種のレピータ・システムです。

WiRES-II はパーテックススタンダードの HRI-100 (23,100 円 税込み) というインターネット接続コントローラを使い、アマチュア無線機の音声をパソコンからインターネット回線に送り込み同社のサーバでおのおの WiRES-II 中継局 (ノード局と呼ぶ) を集中管理して、この中継局にアクセス (呼びかけ) した無線局同士が交信します。

本章では、HRI-100 を使って全国各地で開設されたインターネット中継局を使って誰でも簡単にインターネット経由でアマチュア無線の交信を楽しむ方法を、2005 年 9 月にバージョンアップした WiRES-II (Ver.3.300) の機能とその活用方法およびノード局の使い方、作り方、運用マナーまでを網羅しています。

## 7-1 WiRES で交信するには？

### ■ WiRES での運用スタイル

WiRES-II は誰でも使えるノード局が全国各地で稼動し、誰でも簡単にネットワークを利用できるように、操作方法も統一されているのが大きな特徴です。

ノード局とは、無線機からの音声の送受信信号をパソコンで処理してインターネットに仲介する中継局 (アクセス・ポイント) です。

ユーザは接続したい先のノード局の ID 番号 (ノード番号) を DTMF トーン (ピポパ音) を使って自局から電波が届くノード局 (アクセス・ポイント) に向けて送信するだけという簡単操作です。このコード番号をノード局が受信すると、指定した先のノードと中継回線が確立され、それぞれのノード局を中継回線に用いて遠くの局と交信することができます。交信が終わったら、切断用コマンド (もちろん DTMF トーン) の送りで中継を終了させることができます。WiRES-II の DTMF によるコマンドは表 7-1 のようなものがあり、これらコマンドを使って、WiRES-II ノード局を動作させます。

したがって、WiRES-II を利用するユーザはノード局にさえ電波が届けば、通常では電波が届かない地域の局と交信することができます。

もし、電波が届くノード局がない場合は、自分でノード局を開設して使うのも良いでしょう。この場合、WiRES ネットワークのアクセス・ポイントとして不特定多数の局にサービスすることもできます。

主な運用スタイルとしては、外出先の車の中からモバイル機で QRV したり、ハンディ機を片手に歩きながら全国各地の局と QSO したりという使い方ができます。ノード局に関しては、レピータ局とリンクしている局も存在します。